



開館20周年記念

2010 秋季高岡万葉セミナー

大伴家持研究の最前線Ⅱ

家持研究は、今までに何を明らかにし、
これから何を明らかにしようとしているのか。

平成22年
期日

11月21日(日)
13:00~16:30

◆受講料：1,200円

◆定員：先着120名

会場

高岡市万葉歴史館／講義室

※富山県民生涯学習カレッジ連携講座です。
夏季高岡万葉セミナーとあわせて受講された方に10単位交付。

第1講 家持作品の時間と空間

【講師】廣川 晶輝(甲南大学教授)



『万葉集』の中に編集されている大伴家持の作品には、万葉歌人大伴家持の〈時間〉と〈空間〉に対する鋭いまなざしと、その方法化のありようを明瞭に見出せる。その方法化は、長歌+反歌という形式の選択と関連し合っており、例えば、長歌の中に布置した時間の隙間を反歌の時間によって埋めるというような方法に如実に顕れている。方法化された〈時間〉と〈空間〉の分析を推し進め、万葉歌人大伴家持の作歌の深化の相を見定めたい。

第2講 「三年春正月一日」の賀歌から「萬葉」の賀歌へ

【講師】大濱 眞幸(関西大学教授)



天平宝字三年春正月一日、因幡国庁において大伴家持は、管下の下僚達を前に、国守たる立場から新年の賀歌を披露した。即ち、『萬葉集』最終歌、巻二〇・四五一六番歌である。

本講義では、まず、家持が、当日披露の場において当該歌に込めた祝意の内実を探ってみたい。また、そのことを通して、当該歌が、『萬葉集』全二〇巻の掉尾を飾るに相応しい歌としての新たな生命を与えられてその位置に配されていることの必然性も考えてみたい。

申し込み方法

講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記載の上、ハガキ・電話・FAX・E-mailなどで下記にお申し込みください。高岡市万葉歴史館受付でも申し込みます。受講料は、当日受付でお支払いください(おつりのないようご注意ください)。

※お知らせ頂いた個人情報を受講の通知・講座日程の変更通知に必要となります。これ以外の目的に使用する事はありません。

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11
TEL:0766-44-5511 FAX:0766-44-7335
E-mail:manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
http://www.manreki.com



交通のご案内

- ・JR高岡駅より車で25分
- ・JR高岡駅正面口4番のりばよりバスで約25分乗車・伏木一宮下車・徒歩7分(西まわり古府循環・東まわり古府循環・西まわり伏木循環行きなど)
- ・JR氷見線伏木駅より徒歩25分・能越自動車道高岡ICより車で約25分